

# Long-term outcomes of women with coronary artery disease following complete coronary revascularization

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2013-02-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 仁 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001476">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001476</a>

順天堂大学 博士(医学)

氏名 佐藤 仁

論文題名 Long-term outcomes of women with coronary artery disease following complete coronary revascularization

(完全冠動脈血行再建を施行した女性患者の長期予後)

#### 論文内容の要旨

女性は男性と比較し虚血性心疾患の罹病率は低いが、血行再建術施行患者では成功率が低く予後も不良である。しかし、冠疾患患者で完全血行再建が施行された患者の性差による長期予後の報告は少ない。特に、本邦で冠インターベンション（PCI）と冠動脈バイパス手術を含めた完全血行再建後の長期予後の性差による検討はこれまでほとんど行われていない。本研究の目的は性差による完全血行再建症例の長期予後を比較することにある。

<方法>当院で1984年から1992年に施行された完全血行再建術（PCIバイパス手術）患者連続1836例を対象とした。1次評価項目は全死亡・心死亡・脳卒中とした。

<結果>女性は274例14.9%で、有意に高齢、総コレステロール高値、多枝病変が多い。平均11.4年の追跡期間で全死亡は412例、そのうち131例が心死亡であった。また、脳卒中は130例に認めた。男女間の全死亡、心死亡、脳卒中はカプランマイヤー曲線上差は認めなかった。また男女間の年齢や腎機能、左心機能などで補正した多変量解析において全死亡、心死亡、脳卒中の女性の男性に対するハザード比はそれぞれ1.01、1.41,0.71となったが、統計学的差は認めなかった。

<結論>完全血行再建術施行患者の性差で、女性は背景因子が不良にもかかわらず、死亡・脳卒中などのイベントは長期追跡において男性と差はなかった。